

主図版① 「冢」の瓦当



図版②-1 「冢」字瓦当



図版②-2 「墓」字瓦当



《原刻》



《翻刻》



今回の第70回記念
書道芸術院展特別企
画展示「日本の上代
金石拓本」展を監修
させていただきまし
た。その際の「唐招
提寺門額」の拓本が、
翻刻でした。ここに
原刻拓本（数年前に
この欄で紹介済み）
と今回の翻刻拓本を
比較した図版を付し、
訂正させていただぎ
ます。左の原刻拓本
は表具の際に中央の
文字間が少し詰めら
れています。

今回の第70回記念
書道芸術院展特別企
画展示「日本の上代
金石拓本」展を監修
させていただきまし
た。その際の「唐招
提寺門額」の拓本が、
翻刻でした。ここに
原刻拓本（数年前に
この欄で紹介済み）
と今回の翻刻拓本を
比較した図版を付し、
訂正させていただぎ
ます。左の原刻拓本
は表具の際に中央の
文字間が少し詰めら
れています。

図版③-1 「家上」字瓦当



図版③-2 「家当」字瓦当



「秦漢時代の瓦当と磚文」 ③「家(塚)」「字瓦当」後漢時代

建築物に使用された軒先瓦は、多種の吉祥語が使用されているが、目出度い言葉でなく、墓に関するものもある。今回紹介するのは、「冢」(塚に同じ)の一文字の瓦当である(主図版①)。下の余白に一羽の鳥が描かれている。漢の瓦当で文字と絵の共にあるものは大変珍しい。直線で上手くまとめ、外の余白には曲線と点の装飾文様を付している。下の小鳥は、墓守のフクロウであろうか。祖先を祀る墓などの建物に使用された瓦も多種のものを見ることが出来る。絵のない「冢」に関する瓦当を数種示した(図版②-1・2、図版③-1・2)。

皆さんの忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせください。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

書道芸術院

平成の群像 (2017)



第67回毎日書道展「闘魂 地平線 光の渦 燐燐」 森 舞扇書



森

舞
扇

“心に響く言葉を”

今、書の足跡60年を振り返ってみると樂器を奏で唄や舞踊の世界にいる父母亲があり私はその中に居ました。文字を書く事が好きで、思えば小学校2年の時の書き初め「かるた」が始まりでした。

6年生の時「羽子板」が最高賞

になり上野・都美術館へ授賞式に出席した事がきっかけで、種谷扇舟先生の門を叩きました。先生の指導は厳しさと優しさが入り交っていました。

高校では鈴木方鶴先生に出会い、体操クラブと書道クラブの二股で活動しました。2年生の時、書芸文化院展で、文化院賞になり席上揮毫をするため方鶴先生と2人で出かけましたが、その時進路を学芸大学書道科に決めました。大学では、田邊古邨先生・伊東參州先生・續木湖山先生方々に出会い沢山の書法を学びながら毎日書道展・書道芸術院展等に出品したのです。また中学より好きな舞踊を始め、大学入学と同時に東京舞踊学校へ通いました。都立三商で講師をする傍ら舞踊学校へ通い続け、書展でも活動しました。

1970年26歳の時、国交回復前の中

主な書歴としては1967年書道芸術院審査員・毎日展毎日賞、1985年第三回毎日展会員賞受賞。今まで銀座で一人展、台北で個展、最近は地域活性のための文字のある生活アートで楽しい書展等を活動的場として続けて居ります。

心に響く言葉や感動した事をそのまま紙にぶつけ、作品の中に生き命力が躍動する作品を作ろうと心がけています。そして、ユニークな書の中にも観る人に共感出来る表現を試みたいと常に思っています。

最近七十にしてやっと“忍”的文字を、強さと温かみを込めて表現出来るようになりました。文字を描く事の楽しさを感じつ更に酉年に羽ばたいて行きたいと思っています。よろしくお願ひ申し上げます。

国（広州・杭州・上海・北京17日間）への第6次教育事情視察団の一員に加わる機会に恵まれました。訪れた深圳（広東省）では鉄砲を扱いだ兵士が立っていました。その折求めた拓本30余点は私の宝物です。

間）への第6次教育事情視察団の一員に加わる機会に恵まれました。

訪れた深圳（広東省）では鉄砲を扱いだ兵士が立っていました。そ

の折求めた拓本30余点は私の宝物です。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第70回記念書道芸術院展 盛況の裡に終了

2月8日に一般公募入賞作、無鑑査全作品の表装後の再搬入と共に審査会員候補・審査会員作品、物故者遺作を含め都美審査室に無事搬入された。

9・10日に理事監事で構成された特別賞選考委員により審査会員候補及び審査会員の選考が行われた。今回は諸般の事情により初日に両資格の予備選考を行い、大賞以下の審候対象の各賞を決定、10日前に審査会員対象の春華賞・記念賞などの選考を行った。栄えの書道芸術院春華賞には現代詩文書部佐久間幸扇さん(千葉白扇会)、大賞には錢谷雪蘭さん(青森宮城野書人会)が入賞された。その他各賞は発表の通りである。

15日(水)陳列作業は100名余の動員手伝いをいただき陳列部の適切な指示で夕刻までに完了した。午後3時半からは評論家・報道機関関係者にお集まりいただき記者会見を理事長・常務理事により行った。並行して田宮文平・麻生泰久・名児耶明各先生による作品選考と批評も実施、各氏5~6点の作品をお取り上げいただき自筆作品評を掲示し、印刷配布も行い好評であった。



大勢の受賞者

16~21日の会期中には多くの方々にお出でいただき例年になく盛会であつた。16日午後の伊藤滋先生による都美講堂にて行われた講演会は、特別展示の「日本上代金石拓本」をテーマとした内容の濃い有益なお話をいたいたい。18日午後の作品解説会は漢字部種谷萬城、かな部下谷洋子、現代詩文書部小竹石雲、篆刻刻字部後藤大峰、前衛書部板垣洞仙の各先生方に各部の状況をお話しいただき、全体総評を辻元大雲理事長が担当した。展覧会場第1室に溢れんばかりの参加者で大盛況、解説も種谷萬城先生にお願いし大変有意義な催しだった。

特別企画「日本上代金石拓本展示」は種谷萬城・金木和子両先生を中心とした。展示作業が進められ記念事業にふさわしい素晴らしい会場構成となつた。

19日には帝國ホテル富士の間で全国学生書道展の表彰式、書道芸術院展表彰式、物故者慰靈祭、更に100名余のご来賓をお招きしての祝賀会が650名ほど参加者で、帝国ホテル孔雀の間は溢れんばかりの盛況であった。祝賀会冒頭には70周年記念の功労者表彰が個人17名と4団体に贈られた。

今後3月初旬の南関東総局での役員海外展を含め更なるご支援ご協力をお願いしたい。(詳細は次号以降報告)



大盛況の祝賀会

第69回毎日書道展主要人事

2月6~7日開催の第69回毎日書道展運営委員会にて主要人事が決定した。

(院関係・既報除く)

・運営小委員会 板垣洞仙(前衛書部)
・会員賞選考委員
・当番審査員

名越蒼竹(漢I)、牧泰壽(漢II)、
石井明子(かI)、田子白嶺(かII)、
尾形澄神・佐藤無極・白石和楓(近)、
小伏小扇・崎井恵風(大)、

くの協力者のお手伝いをいただき無事終了。22日午前搬出作業も大過なく終了した。多くの方々のご協力に感謝申しあげたい。

今後3月初旬の南関東総局での役員海外展を含め更なるご支援ご協力をお願いしたい。(詳細は次号以降報告)

道連盟星弘道理事長、評論家麻生泰久各先生によるご祝辞をいただき、各界代表15名による鏡開き、毎日書道会系賀靖夫専務理事の乾杯ご発声で祝宴の幕が開かれた。入賞者の紹介などにぎやかに行われ盛会であった。

20日には書道芸術院創立70周年を記念して代表役員による座談会が修美社主催で行われ4月初め発行の「修美」に特集掲載される予定である。

- ・著作権担当主任 佐久間幸扇(近)
- ・著作権担当主任 金木和子
- ・入落担当主任 松村くに子(かII)
- ・鑑別審査担当主任 平川峰子(かI)
- ・陳列副部長 北村白琉(前)
- ・陳列副部長
- ・搬入整理担当主任 三浦鄭街(漢I)
- ・搬入整理担当主任

漢字(六)

生田翠龍



生田翠龍書

△書△は大きくて筆法・結体・布置によつて成り立つてゐますが、書き手の側からすれば、最も肝要なのは運筆です。千変万化する書線を自由にコントロール出来ればよいのですが、そううまくはいきません。

さて、その書線の変化は三つの侧面の統合によつて成り立つてゐると思ひます。一つは今まで述べてきた点画・結体・章法の形の変化。二つ目は引力やバネなども含めた筆動。三つ目は墨量の変化です。

勿論、揮毫に際しては、まず、何を書くかを決めておかなければなりません。何を書くか、という意志が確固として筆に伝わらなくては作品になりません。なにしろ書線は結局は意思決定論的な変化です。

ニジミやカスレなど墨量の変化についても大切な事柄があります。書の現場では詩文の決定は作品制作の導入部であり、契機でしかありません。書作の現場では、筆の動きを止めています。こうやって本来抽象的で約束事でしかない文字性を与え、文字を具現化するのです。△書△は文字の表情に躍動感をもつ

事が大事ですから、筆動の制御——墨の濃度とか紙の質との関係で相対的であり、その速度は絶対的ではありません。しかし、私達が謝赫(しゃかく)の「氣韻生動」とか孫過庭(そんかいてい)の「執使用転」などの表現を平気で使いうるのは、経験則として千年前から判つてゐる事でもあります。つまりました。ただし、その合理的な説明をして来なかつただけ

現し、時代により多様化していくようです。

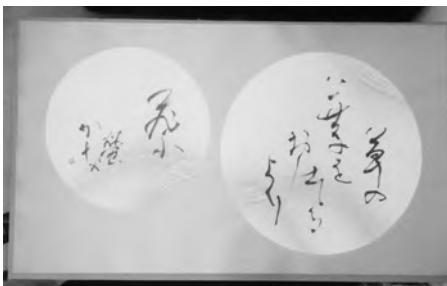
書景会ではこの2年ほど、なるべく変体かなを使わない作品づくりにも挑戦しています。昨年の社中展では「わかりやすさの中でのかな表現」と題し読み群論的な働きによる軌跡が、揮毫することとの内味でしうが、その合理的な動きを突破した瞬間、非合理的な世界は開き、破筆が生まれ、あるいは飛墨するといえましょ。『崔氏玉座右銘』(空海)を見

21世紀の書

—私の主張—

かな(六)

勝山初美



写真上..①松尾芭蕉俳句
写真下..②筆

親しみやすいかな書
平安時代から生きづく小字かな、大規模展覧会により発展してきた大字かな、現在では連綿線を使わないかな作品なども出現し、時代により多様化していくようです。

書景会ではこの2年ほど、なるべく変体かなを使わない作品づくりにも挑戦しています。昨年の社中展では「わかりやすさの中でのかな表現」と題し読み群論的な働きによる軌跡が、揮毫することとの内味でしうが、その合理的な動きを突破した瞬間、非合理的な世界は開き、破筆が生まれ、あるいは飛墨するといえましょ。『崔氏玉座右銘』(空海)を見

しかし拘りすぎると流れや優雅さといったかならしさが損なわれてしまいます。そこで簡単な変体かなを用いてバランスを取りました。

又かなの用紙は、素紙や加工紙(加工の強弱も色々)、ばかりや雲母入・型紋入など種類も多く、紙により使う筆も変ってきます。同じ紙でも使用する筆の毛質・穂先の形状・毛の量・長さなどによっても表情が変わってきます。柔らかな紙質にはための筆を、加工紙には羊毛や兼毫筆などを合せ、毛質も、栗鼠・コリンスキー・牛耳・ミンクなど多種多様です。この所使用している筆は兼毫で先が利き歯切が良くなり、強い線から繊細な線までこなします。又「五風五洋」筆は墨持ちが良く、ふつくらとした線が生まれ線質も温かくなるようです。

しかし拘りすぎると流れや優雅さといったかならしさが損なわれてしまいます。そこで簡単な変体かなを用いてバランスを取りました。

又かなの用紙は、素紙や加工紙(加工の強弱も色々)、ばかりや雲母入・型紋入など種類も多く、紙により使う筆も変ってきます。同じ紙でも使用する筆の毛質・穂先の形状・毛の量・長さなどによっても表情が変わってきます。柔らかな紙質にはための筆を、加工紙には羊毛や兼毫筆などを合せ、毛質も、栗鼠・コリンスキー・牛耳・ミンクなど多種多様です。この所使用している筆は兼毫で先が利き歯切が良くなり、強い線から繊細な線までこなします。又「五風五洋」筆は墨持ちが良く、ふつくらとした線が生まれ線質も温かくなるようです。

しかし拘りすぎると流れや優雅さといったかならしさが損なわれてしまいます。そこで簡単な変体かなを用いてバランスを取りました。

又かなの用紙は、素紙や加工紙(加工の強弱も色々)、ばかりや雲母入・型紋入など種類も多く、紙により使う筆も変ってきます。同じ紙でも使用する筆の毛質・穂先の形状・毛の量・長さなどによっても表情が変わってきます。柔らかな紙質にはための筆を、加工紙には羊毛や兼毫筆などを合せ、毛質も、栗鼠・コリンスキー・牛耳・ミンクなど多種多様です。この所使用している筆は兼毫で先が利き歯切が良くなり、強い線から繊細な線までこなします。又「五風五洋」筆は墨持ちが良く、ふつくらとした線が生まれ線質も温かくなるようです。

第48回 現代女流書100人展

同時開催=現代女流書新進作家展（第68回毎日書道展会員賞受賞作家）

会期=平成29年2月16日(木)～20日(月)

会場=日本橋高島屋 8階ホール

主催=毎日新聞社 後援=(一財)毎日書道会

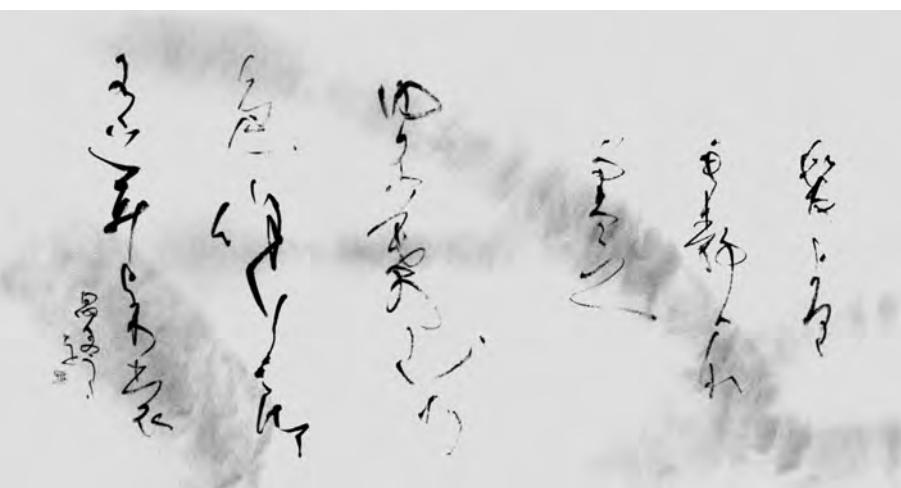
△
宏
△

香川倫子



91×90cm

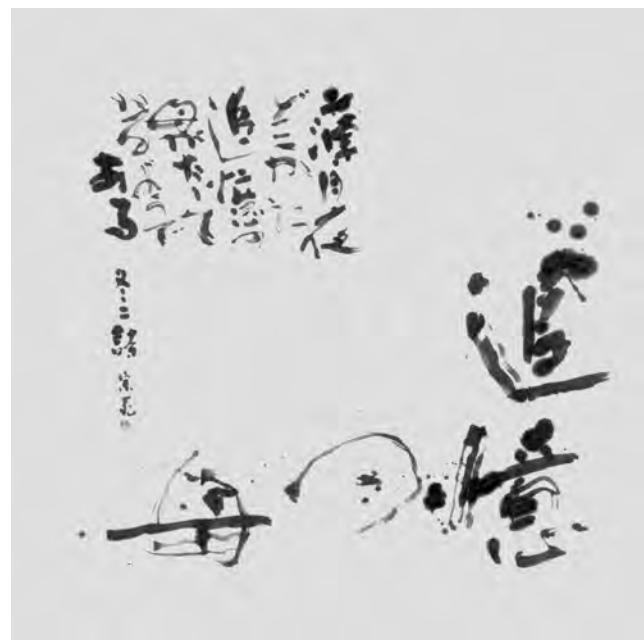
下谷洋子



〈髪よりも〉

69.5×131cm

〈追憶の母〉



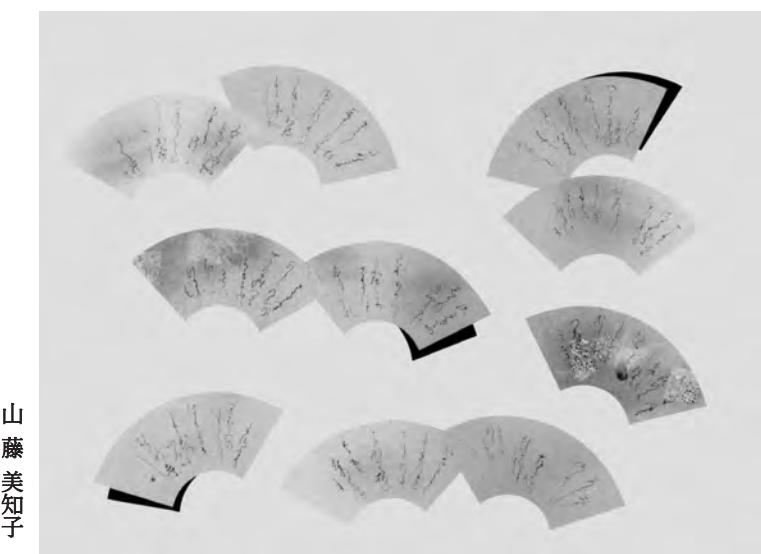
熊谷宗苑

121×120cm

〈五言一句〉



174×86cm



〈実朝春のうた〉

8×37(×10)cm



〈希望の酉年（紺紙金銀泥交書）〉

45×35(×2)/48×120cm

〔侘助〕



白石和楓

173×81cm

〔風にならん〕



167×53cm

〈束(えらぶ)〉



新井京華

184×69cm

〈回〉



稻垣小燕

120×120cm

〈喜び〉



岡田秀韻

70×139cm

新進作家展

〈斎藤茂吉の歌〉



飯沼惠鳳

182×52cm



川島舟錦

138.5×108cm

TOKIMEKI



千葉華紅

180×61cm



太田蓮紅

124.5×103cm

曹全碑 (後漢) ③

そうせんひ

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可

〈解説〉隸書は、篆書の点画が直線化され、簡略化されて生まれた書体である。その萌芽は紀元前3世紀頃とされている。篆書を簡略化した過渡的な書風は「秦隸」とよばれている。前漢時代(紀元前206年~8年)になると篆書から隸書への移行が進み、秦隸と平行して草書のもととなる速書きの「草隸」、秦隸の要素を残した波

磔の小さい「古隸」など多様な書風が展開された。前漢末には、波磔を強調した装饰的な「八分」の様式が整い、隸書は公用書体として発展した。後漢の中平2年(185)に建てられた曹全碑は、礼器碑とともに洗練された八分隸の代表的な作品で、ある。

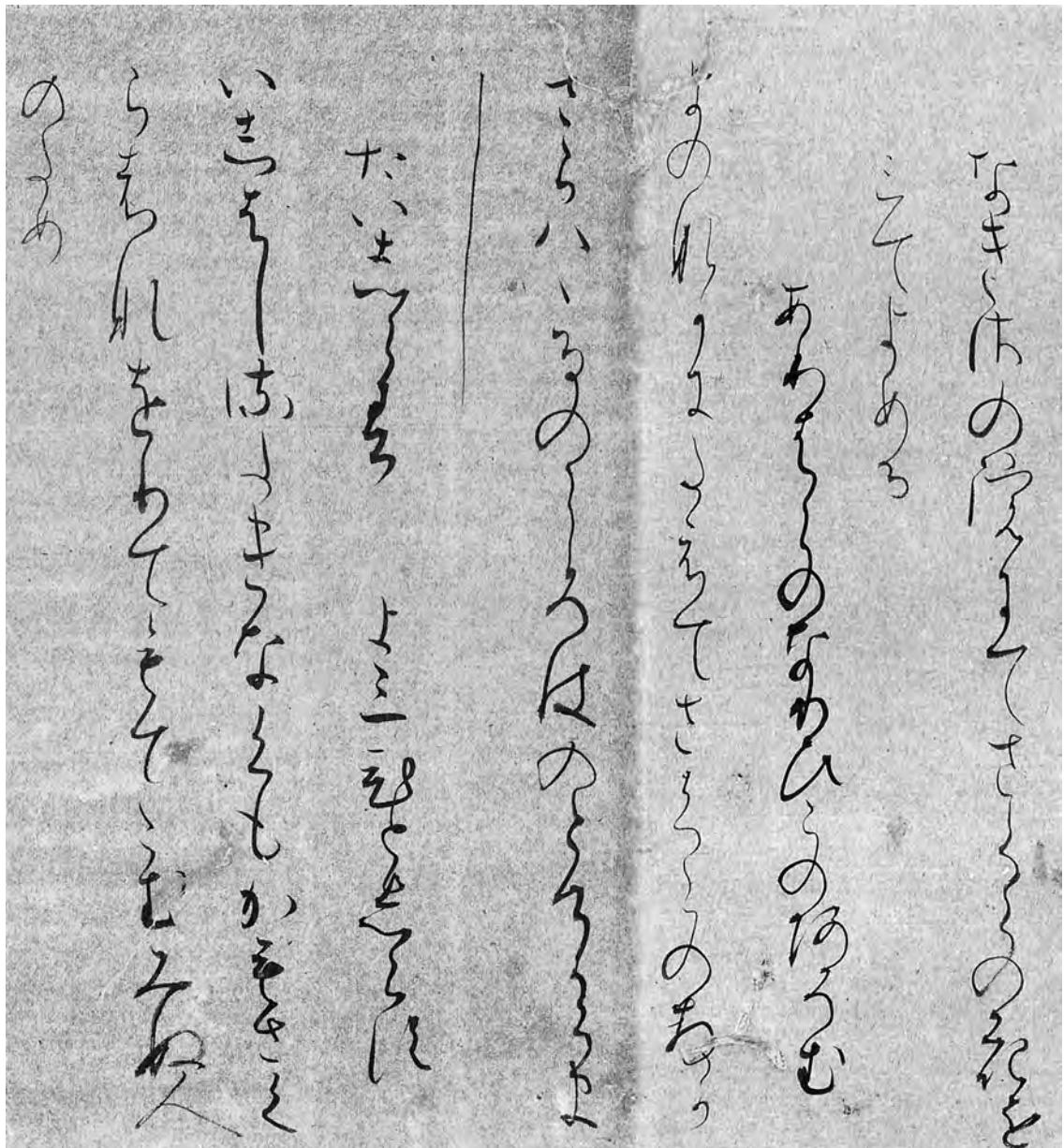
(編集部)



(掲載図版81%縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)



(個人蔵)

<解説>

関戸本古今和歌集は、字形がよく整い、緩急抑揚が自在で変化に富んでいる。その書は流麗で躍動的な筆致であり、連綿あるいは放ち書きを交用している。効果的な墨絶ぎや巧妙な運筆は典雅な格調の高さを感じさせる。

また、華麗な料紙と美しく調和し、王朝貴族の美意識を彷彿とさせる古筆である。

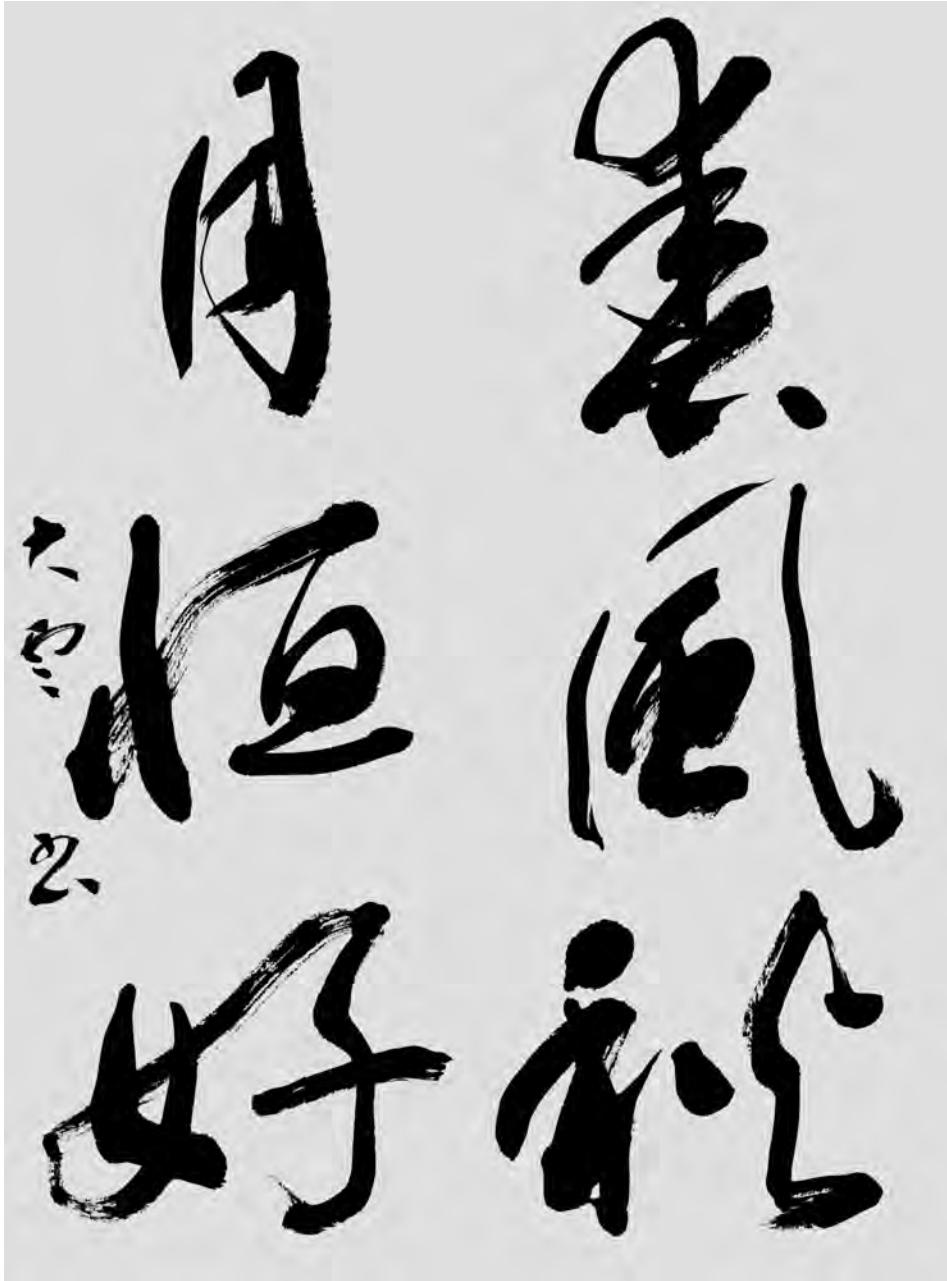
(編集部)

かな研究部
臨書課題(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半價紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全巻も可)特別研究部
臨書課題(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

習い方解説 (六)

辻元大雲

春風秋月恒好
(春風秋月恒に好よし)
(陸墳)



書体=自由

落款は中身にあわせ草書でまとめてみましたが、内容に合わせて幾種類かの落款表現が出来るようになしたいものです。作品の最後の締めくくりとして極めて重要です。署名押印含め心して仕上げてください。

今回は6字句です。春夏秋冬いずれの季節もよいものだとの意です。前回の5字句と同じように半紙全体にバランスよく表現してください。

今回も草書を交えて流れよく表現してみました。もっと素敵な草書もありますので、字典でよく調べて工夫してみましょう。連綿は取り入れておりませんが、リズムにより大胆に表現してみるとよいと思います。

落款は中身にあわせ草書でまとめてみましたが、内容に合わせて幾種類かの落款表現が出来るようになしたいものです。作品の最後の締めくくりとして極めて重要です。署名押印含め心して仕上げてください。

春 風 秋 月 恒 好

よみ (しゅんふうしうげいこう)
(春風秋月恒に好よし)

漢字規定秀級以下【四月十五日締めきり】用紙半紙普通判

川島舟錦選書

習い方解説 (六)

川島舟錦

春樹暮雲
(春樹暮雲)

(杜甫)



楷書は基本となる書体です。用筆法、結構法を学ぶことは他の書体の表現方法にも対応できるということです。点や画の長短、線の太細、粗密、方向や重心を見定め字形をとらえましょう。

同じ筆でも起筆や収筆の変化、筆圧や書く速度の変化によって線質や味わいが変わります。墨や用紙の質にも考慮する必要があるそうです。

昔から「田習い」「手習い」と言われるよう、書の古典や展覧会をさまざまな視点から鑑賞し、感じ取った美的感性を創作という自己表現につなげたいものです。ことも大切です。

春樹暮雲 よみ(春樹暮雲)

書体=楷書

かな規定 初段以上【四月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書

習い方解説 (六)

石井明子

くものすに花びらを見すに行く春か
(荻原井泉水)

くものすに花びらを見すに行く春か

荻原井泉水 (1884-1976) は明治44年「層雲」を創刊し、自由律を推進しました。どの分野も常に新しいことに挑戦している人はいるもので、その精神を汲みとりながら自分の制作に生かしましょう。

かならしい書き方と、平がなと漢字のみ使用の表現で獨点もつけたサンブルを作りました。俳句は墨継ぎなしもよいと思います。この句の季語は「行く春」です。歳時記を手元に置くと、俳句への眼は大きく開かれます。

☆お勧め

角川学芸出版「合本 俳句歳時記」

△サンブル△

井泉水句

くものすに花びらを見すに行く春か

よみ方 く(久)も(毛)のすに(一)花びらを見(美)ず(春)に(耳)行(遊)く(久)春(者累)か(可)

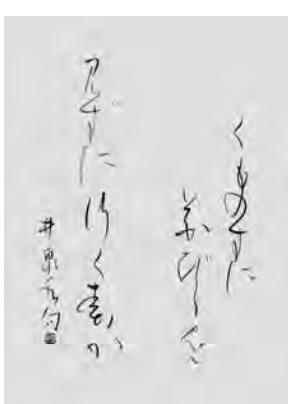
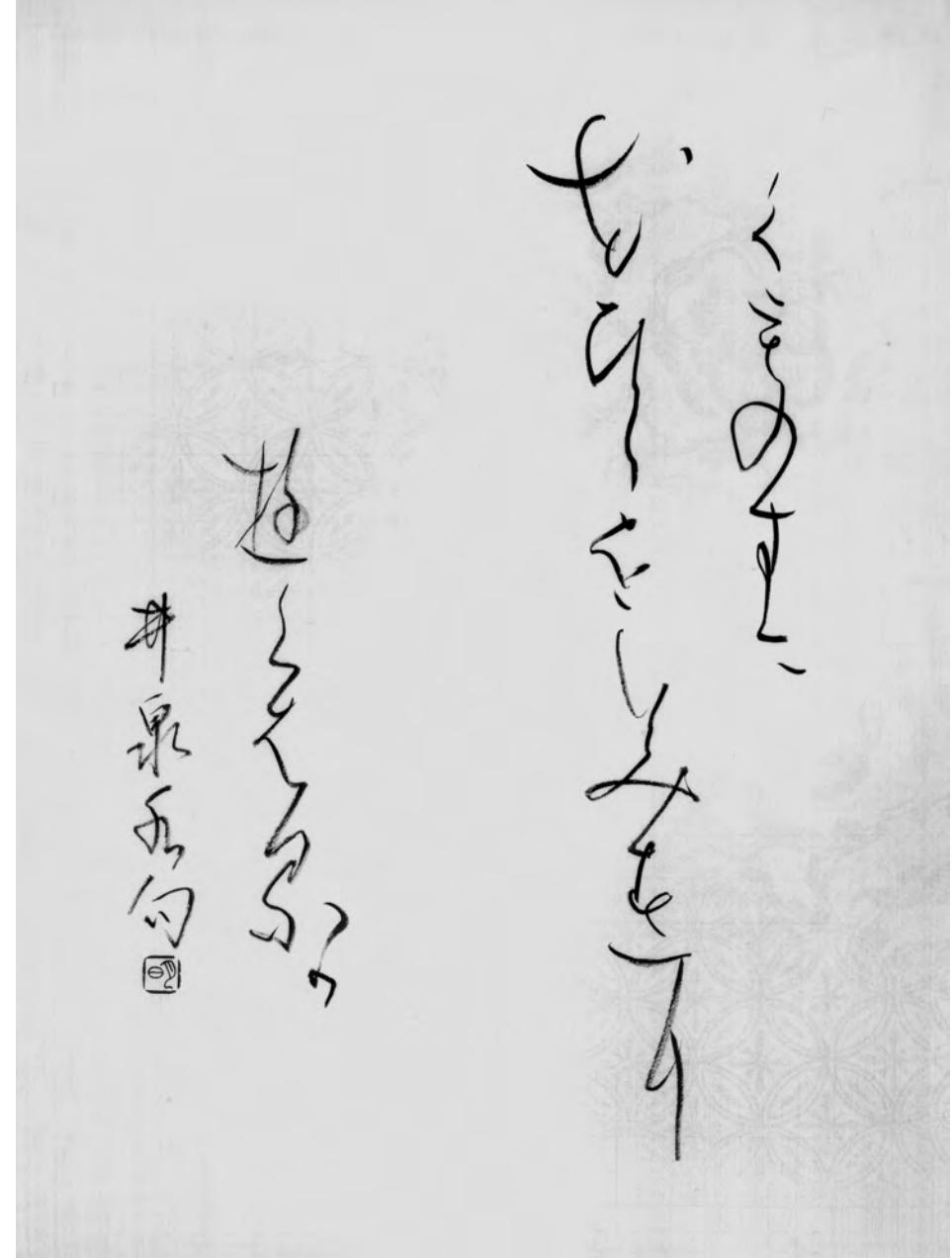
井泉水句

創作

井泉水句

くものすに花びらを見すに行く春か

井泉水句



かな規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

※次回より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたします。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 あれに(尔)け(介)り(利)あは(者)れいく(久)よのやどな(那)れや

す(須)みけむひとのお(於)とづれも(毛)せ(世)ぬ

習い方解説 (三)

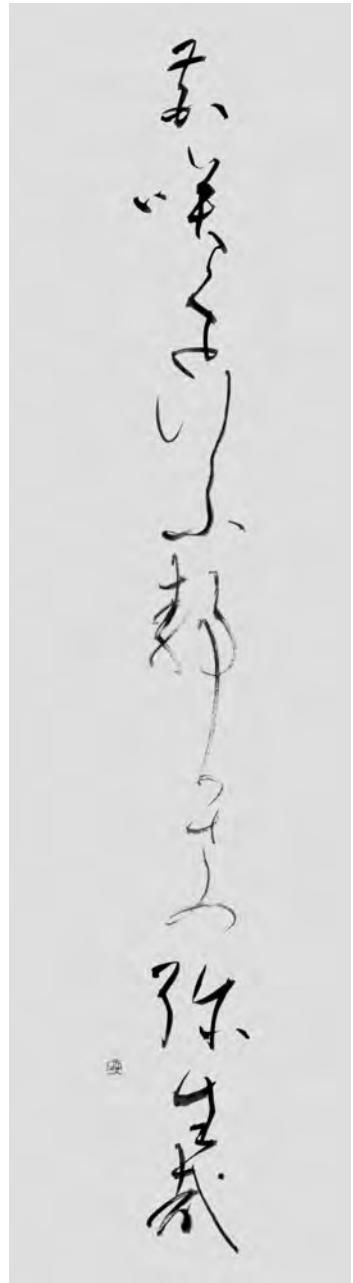
見越雪枝

(小杉余子)

花咲くといふ静かさの弥生かな

見越雪枝選書

かな条幅規定【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)



創作

弥生3月—草木がいよいよ生い茂る月。その中で、静かさがひっきりと漂う情景が浮かびます。
今回は、1行書きの俳句です。
敢えて動きを抑え、落款印のみ、墨継ぎの変化で立体的にと試みました。

作者名を入れる場合は、作品の一部として句に寄り添うよう工夫してみて下さい。

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【四月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (六)

小竹石雲

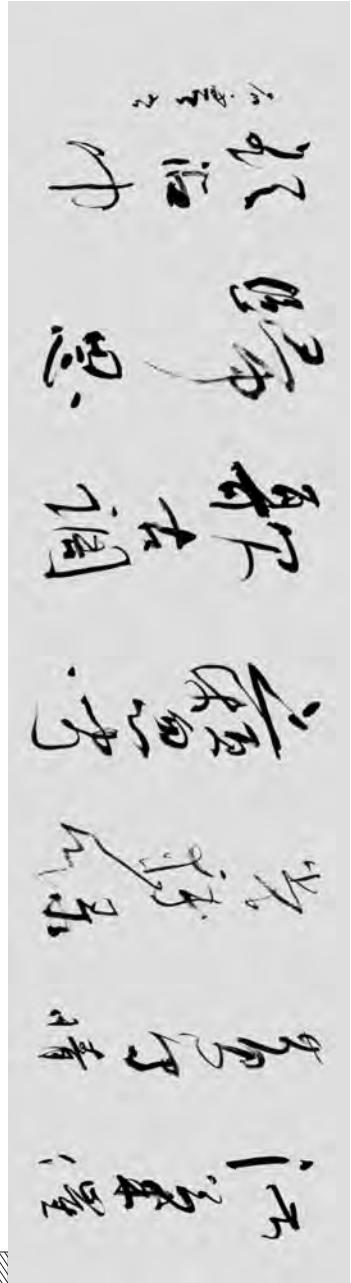
手紙を書く雰囲気でじっくり自然に気負わずに書きました。

そのためには全体を掌握し、呼吸切れしないように書きましょう。タッチもあまり気張らずに静かに書きました。

横作品は横への展開が大事です。上下もさることながら隣同士にくる字を考えて書くことが大切です。

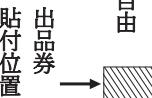
字間をつめて行間をあけるとスッキリとしてきます。

*よこ形式に限る



淑氣催黃鳥 晴光轉綠蘋 忽聞歌古調 歸思欲沾巾 (杜審言)
(淑氣黄鳥を催す 晴光緑蘋に転ず 忽ち歌の古調を聞きて 帰思巾を沾さん)

書体=自由



習い方解説 (六)

前田 龍雲

「春の色は五色に彩られて、雲の色まで春めいて見える」という意味です。季節柄感情移入ができるかと思い選びました。ただ書くというのではなく、内容も理解して取り組んでほしいのです。

今回は若干動きを大きくし、リズムに乗って書くように心がけ、1本の線の中にも変化がつくようにしてみました。気楽に書くと線が緩みがちになるので気をつけてください。



漢字条幅規定 秀級以下【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

前田 龍雲選書

春雲五色開
(春雲五色開く)
(郊詔)

書体=自由

習い方解説 (六)

塚越紅苑

春の小川はたらたら流る

岸のすみれやれんげの花に

匂いやぐたく色うつくしく

咲け咲けとさやかさながら

紅苑書

用紙=はがきの大きさ(14×10mm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

啓蟄とは陽気に誘われ、土の中の虫
が動き出すころのことです。
一雨ごとに春になる。そんな季節の気
配を感じます。

春の小川は、小田急線の代々木八幡
駅付近の線路沿いに歌碑が建てられて
います。渋谷区代々木周辺を流れる河
骨川の情景を歌ったものです。

基本になる姿勢、腕の構え、ペン軸
の持ち方、ペン運び等十分留意して書
いてみて下さい。

丁寧に誠意をこめて、一生懸命に書
けば、上手下手を超えて、書いた人の
人柄が表れます。ゆっくりと丁寧に
書くことが上達の最短距離です。

※掲載手本の歌詞は1912年文部省唱歌と
して発表された当時のもの。その後
この歌詞は2回改変されました。
2月号予告の3行目において「めで
たく」を「やさしく」と掲載してお
りました。ここに訂正してお詫び申
し上げます。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 669

漢字部 師範 後藤 白琴
濃墨によるねばりある線質を生
かし、暢びやかな中に滋味溢れ
作。構えの大きさも魅力的。
◎漢字部總評 上級4字書はたっ
ぶりと暢達した作が多く好感。下
級5文字表現はやや小ぶりにまと
まつた作多く要一工夫。(大雲評)



かな条幅部 準師 辻山 美艸

かな条幅部 総評 超濃墨は流れ
が出ないので不可。鋒先が揃つて
いる筆も太細が出ないため不可。
適した用具を使いたい。(洋子評)



かな条幅部 準師 辻山 美艸



漢字条幅部 師範 吉田 光春

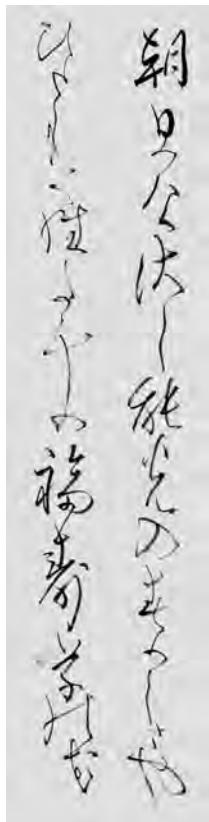
鶴毛筆を用いながら線が浮薄と
ならず一貫して芯が通っている。
結体も引き締まって切れ味がよい。

◎漢字条幅部總評 自己改革を試
みた作が上級に見られ頗もしく思
う。下級は落款の不調和、誤字が
目立った。(翠風評)



漢字条幅部 師範 吉田 光春

前衛書部 特選 吉岡 風華
流動線を有する構成美と潤渴美
が合体した作。軽やかな動きの中
に明るい未来が見えそうである。
◎前衛書部總評 個々の主張が作
品に反映されている。更なる心と
技法の探究を求めたい。(蓮紅評)



前衛書部 特選 吉岡 風華

現代詩文書部 特選 白井 真理
潤渴が心地良いリズムに乗って
表現され、筆の特性を充分に活か
した作品に日常の鍛練さを見る。
◎現代詩文書部總評 紙・墨・筆
に心配りのない書作は上達しない。
良い作品は真剣である。(梓江評)

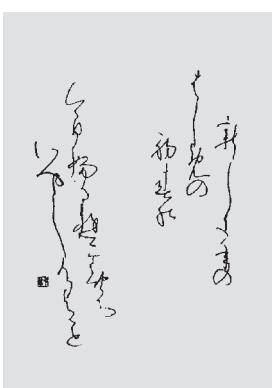
現代詩文書部 特選 白井 真理

ペン字部 師範 鶴田 恵子
いつもながら、ペン線美しく清
澄な作。温雅な表情を醸し、布置
も巧み。格調の高さ抜群です。
◎ペン字部總評 行書・かな連綿
作品が大半。さらに連綿の基本・
休みどころの要領を正しく理解す
ることが大切です。(紅瑠評)

ペン字部 師範 鶴田 恵子

かな部 師範 石閥 千裕
織細で切れのよい線が美しい。
左右への大きな動きが複雑な余白
を生み風通しの良く明るい作です。
◎かな部總評 過大な字で品性を
欠いた作品散見。かな美の調和を
再考のこと。広く美しいものに接
する努力を希望します。(明子評)

かな部 師範 石閥 千裕



かな部 師範 石閥 千裕
織細で切れのよい線が美しい。
左右への大きな動きが複雑な余白
を生み風通しの良く明るい作です。
◎かな部總評 過大な字で品性を
欠いた作品散見。かな美の調和を
再考のこと。広く美しいものに接
する努力を希望します。(明子評)

今月の

特別研究部 優秀作品(特選)

現代詩文書

(大雲) 松永香秋
「片山由美子句」



171×55cm

松永香秋書

◆潤渴の変化が大きく広がるり
ズムを醸し、ゆったりのびやか
な作。2行目後半がやや不安定
か。

(大雲評)

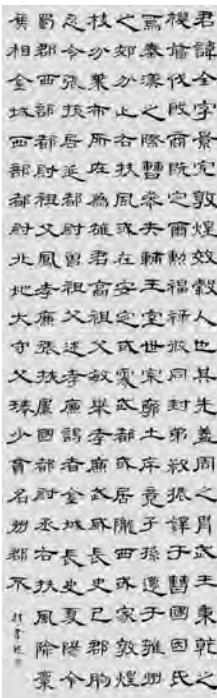
◆筆の開閉が自在で心地良い。
「戻れば」の意は、「日が翳る、
蔭る」。作品に深さが見える。

(峰子評)

臨書

(英峰会)

佐藤桂香 「曹全碑」



174×57cm

佐藤桂香臨

◆大字系詩文書として見応えあ
る作品。重厚な線で渴筆も筆を
駆使して美しい。

◆柔軟な弾力のある線、紙面全
体に俳句を2行書きにまとめた
自然な安定作。能登の海を彷彿
する。

(京子評)

(翠風評)

吉瀬彩雨 「関戸本古今集」



55×169cm

吉瀬彩雨臨

◆典型的な八分隸の特徴をよく
とらえ忠実、安定感ある臨書。
真面目な取り組みに敬服。

(大雲評)

◆曹全碑の整齊美を最後まで一
貫して書き通した。隸書作品と
しての構成術も考慮されている。

(翠風評)

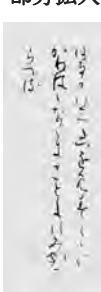
◆曹全碑の特長である典型的な
八分の隸書をのびのびと美しく
律動感、連綿の妙など十分に発
揮した乱れない臨書に敬服。

(京子評)

◆関戸の特徴である転折の強さ
と抑揚ある運筆が見事。一枚に
集中の精神力は凄い。次は濃淡
二様の料紙を。

(峰子評)

部分拡大



◆波磔が丁寧で美しい。真摯さ
がうかがえる臨書作品。さらに
横広扁平の概形を押し進めてほ
しい。

(峰子評)

◆曹全碑の整齊美を最後まで一
貫して書き通した。隸書作品と
しての構成術も考慮されている。

(翠風評)

漢字研究部
(曹全碑)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



鷺山美梢



洋霞信敦京千芳
春花代子花子

美花志東清陽
楓源扇空耀子

雅直良翠慶京
芳子子芳子子

道春佳裕惠
澤子洋月美子

漢字研究部 特選 鶴山 美梢
右払いは、筆の開閉を生かし「ゆったりと
払い出すように」。左払いは、「力強く押し出
すように」。基本をしっかりと、よく鍛
錬を重ねた線質で、気脈を大切に、一画一画
伸びやかに表現しています。

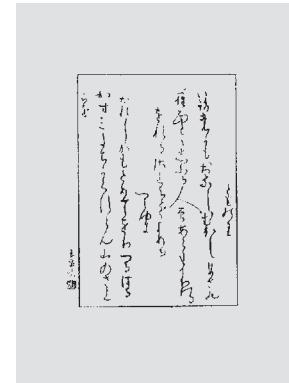
◎漢字研究部総評
均齊美、均衡美を兼備。優美で洗練された
実に美しい「曹全碑」。流麗な波磔、装飾的

な効果が際立ちます。臨書作品は、初級・中
級・上級と、それぞれ進捗状況を感じられる
ので、楽しく審査させていただきました。
書道芸術院展特別企画「上野三碑展」箱書
きの鍛り上げられた線質、凜とした隙のない、
美しい隸書体に見入ったままその場を動くこ
とができるまで書き込み、自在に表現したいも
のです。

かな研究部
(関戸本古今和歌集)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



後藤良泉

かな研究部 特選 後藤 良景
関戸本古今集のリズム感、連綿をよく捉え、墨の濃淡の変化を美しく表現できました。作者の筆に入めた呼吸が伝わる様な作品です。

かな研究部成績表